
レニ<1000% ~おい俺の筋肉~

竹月 力内人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

レニ<1000%　　ゝおい俺の筋肉ゝ

【Nコード】

N2891Z

【作者名】

竹月　力内人

【あらすじ】

大学生でありながら雑誌の専属モデルとして生活していたイケメンが突如部屋ごと異世界へ。ダンジョンに潜ってお金を稼がないと全てが消えてしまう。ダンジョンに潜るたびイケメンの秘められた願望が露わに。そして変貌していく肉体。イケメンは一体何になるのか。異世界最強チート無双御都合主義と流行を盛り込みつつ肉が踊ります。

プロローグ（前書き）

いきなりとなりますが、リアルが忙しいので更新速度はメチャ遅です。

女の子成分は当然ありません。会話すらありません。当分の間状況説明で進んで行くと思います。

久々に書く文章ですので滅茶苦茶だと思いますが、それでもお付き合ひ頂ければ幸いです。

ブローグ

夢を見た。

光の中をどこまでもどこまでも進む夢。

だから意識が浮上して、朝日に照らされたと思っていたる窓の先が、単なる光の世界だという事に気付かず、いつも通りのトーストとハムで朝ご飯を済ませた後の僕の痴態は、今語ることではないだろう。ガス・水道・電気は通っている。しかしテレビには砂嵐のみがながれ、インターネットは繋がらず、スマホにも電波がない。

玄関は何をしても動かず、窓も同じ。

閉じ込められたのかと思いきや、2LDKの我が家のドア数5が6に増えている。玄関でも寝室でも物置代わりの部屋でも風呂でもトイレでもない6つ目のドア。隣人が住んでいるはずの場所へと続くドア。

なぜ今まで気付かなかったんだろうと、不思議に思うほどの存在感を醸し出しているドアが、リビングの何も無い壁に存在していた。そのドアを前に、自分が狂ってしまったのではないと、自分自身を考える。

たかだまさん

高田勝21歳。男。身長192cm体重68kg。大学3年。C

OWCOW専属モデル。髪はスパイキーショートの黒茶。顔はまあモデルがやれる程。性格は穏やかだけど理知的ではあると思う。草食系だのイケメンだのよく言われている。筋肉が付かないひ弱な身体がコンプレックス。子供の頃から背だけは大きかったから、小学生ではマツチ棒、中学生では耳かきという渾名もあったほど。高校に入ってモデルを始めてから変な渾名は付かなかったけど。両親は健在で、兄弟は10歳の妹が1人。まあモデル始める時に勘当されてるから6年会ってないんだけど。彼女は今はいない。付き合った人数はそこそこのいるけど、恥ずかしながら童貞^{チエリ}。心を開かないい

つまでも余所余所しい僕に、愛想を尽かしてすぐに振られるから。まあそんな僕だからもちろん軽い友達はたくさんいるけど、親友と呼べるような存在はいない。考えていてちよっと寂しくなってくるが、これが僕なんだから仕方がない。

勝手に落ち込んだりしながら、自分の精神に異常がないと思う。夢のような曖昧な精神でないことから、これが現実なんだと認識するしかない。

とにかくドアを開けなければ何も進まないと決心し、ドアを開けた。

先に見えたのは隣部屋ではなく、艶のある黒い壁に囲まれた10畳程の部屋。天井床壁全て仄かに青白く光っている。

中に入るのを躊躇いながら観察していると、部屋の中央に何か映画のパンフレットのような白い冊子が置いてあるのに気付いた。

怖々一歩を踏み出し、何とも無いのを確認しゆっくりと一步一步前へ進む。部屋の中央に到達し、白い冊子を手に取る。表も裏も真っ白で、タイトルも何も書いていない。

一度パラパラと捲ると、中には文字と絵が確認できる。今度は1ページ目からちゃんと読み始めた。

簡単に言ってしまうえば、この冊子は説明書だった。

RPGの説明書に似ていると言えば良いだろうか、中に書かれている事を実際に行ってみたら出来たのだから驚きだ。

「ステータスオープン」

念じるだけで言わなくても大丈夫なようだが、慣れるまでは口に出そうと思う。

言い終わると同時に景色が暗転、言葉と数字の羅列のみの世界へと移行した。

名前：高田 勝 年齢：21歳 種族：日本人 所持金：0

LV 1 (10)

STR 1 AGI 1 DEX 1

VIT 1 INT 1 MND 1

FP 10

HP 150 / 150 MP 150 / 150

ATK 1 MATK 1

DEF 1 MDEF 1

SPD 1 MSPD 1

WEIGHT 2

職業：┆

称号：┆

信仰：┆

アビリティ：【ワープ】

アクティブスキル：┆

パッシブスキル：┆

状態：┆

武器：説明書

防具：無地のシャツ 黒のボクサーブリーフ

他：純銀のピアス

RPGそのままのようなステータスだった。ステータスの意味はざつと以下。

STR 力 ATKとSPDとWEIGHTに関係する
AGI 素早さ SPDとMSPDWEIGHTに関係する

VIT 体力 HPとDEFとWEIGHTに関係する
DEX 器用さ SPDとMSPDに関係する（数値以外にも細かい作業などの影響があるらしい）

INT 魔力 MATKとMSPDに関係する
MND 精神力 MPと魔法スキル量に関係する
FP フリーポイント ステータスに自由に振れる数字

HP 身体マナ保有量 身体を構成するマナの保有量で、0になると死亡となる。

MP 魂マナ保有量 魂を構成するマナの保有量で、0になると死亡となる。

ATK	物理攻撃力	MATK	魔法攻撃力
DEF	物理防御力	DEF	魔法防御力
SPD	行動速度	MSPD	詠唱速度
WEIGHT	重さ	装備だけでなく体重にも比例する	

職業は、ギルドに所属すると得られるらしいのだが、ギルドってどこだ？ハローワーク？

称号は、ステータスやスキルや行動などで変化するらしい。信仰は、何かに縋ると得るらしい。神とは限らないらしい。

アビリティは、条件を満たすと得られる固有レアスキルらしい。アクティブスキルは、物理ならHPを魔法ならMPを対価として行う技のようなもののよう。

パッシブスキルは、何の対価も必要としない常時発動型の技（？）のようなもののよう。

状態は、身体もしくは精神に作用する何かしらの異常または祝福になると現れるよう。

武器は、武器と認定された手に持つか意識すると装備されるようだ。説明書は武器なのかあ。

防具は、防具と認定された身につけている物が装備されるようだ。

パンツも防具の一部です。DEFの数字からして何のDEFも付いていないようではあるが。

他は、武器と防具以外の持ち物が表示されるようだ。説明書はこっちだとおもっただけだな。

説明書を読んだ限りでわかった範囲はこんな所である。

アビリティにある【ワープ】は、自動登録された場所へと瞬時に移動するスキルだった。

【ワープ】を念じると2つの名前が表示される。バルバレイダ
ンジョン マイルーム の2つだ。

そうダンジョンだ。

説明書には、ダンジョンに潜りモンスターを倒すとお金が手に入るとだけ書いてあった。

そして最悪だったのが、10日毎のお金の徴収。ガス・水道・電気と賃貸代として1000を徴収するのだという。しかも10日毎に1000ごと増えていくのだ。払えなければ全てが消えるとだけ書いてあった。全てに僕も入るのだろう。消えたくないのですお金を稼ぐ必要がある。

そう考えていると、いきなり元の視界へと変化する。

どうやら規定の10分が過ぎたようだ。ステータスに潜れる時間は1回に10分以内と決まっっていて、5分間のインターバル後に再び潜れる。ステータスに潜っている間は外の時間は流れないのだから、制限時間がないと、いつまでも出てこなくなる事もあるからだろう。

「ショップオープン」

再び暗転し、文字と数字の世界へ。

今度はその名の通り店だ。

武器、防具、アクセサリ、便利道具、食料の5種類だ。今はお金が無いので何も変えないが、今部屋にある食料の備蓄がなくなれ

ば、食料を買わないとならないだろう。

食料を見た感じだと、ハンバーガー 100 だとか食料だけではなく料理もあるので料理せずに済むのは楽かもしれない。

ちなみにシヨップはこの部屋でのみ開ける。

「シヨップクローズ」

暗転し元の部屋へ。説明書を持ったままリビングへ戻りドアを閉めると、そのままキッチンへ向かい冷蔵庫から缶ビールを取り出しリビングにあるソファアに座る。缶ビールを開け一気に煽る。一度も息継ぎする事もなく飲みきると。

「はあああああああああ！ …… まじでか」

空気と一緒に何かをはき出す。

胃の中に無理矢理流し込まれたビールのアルコールが、血液に乗って全身をかけ巡っていく。酔いはしないが、少し鈍くなった頭と身体感覚に任せ目を瞑る。

寝て起きたら元の世界へという甘い考えに縋ろうと思えない。

ただ、いきなりの事態と情報に、気持ちよりもまず脳の整理と思ひ眠ることにした。

起きたら時計の針が10時を超えていた。起きたのが7時だったから、2時間ちよつとは寝ていたのだろう。

身体のアアルコールはもう抜けているようだ。肝臓が強いのか昔からアルコールが抜けるのが早かった。昔と言ってももちろんハタチカラダヨ。ホントダヨ。

とにかく、何となくだったけど頭のモヤモヤも無くなり、今の状況を頭が飲み込んだようだ。ゴチャゴチャしたら寝るに限る。まず優先順位を決めよう。

- 1．生き抜く。死にたくないから当然だ。
- 2．レベルアップして強くなる。生き抜くに通ずるけど。
- 3．ダンジョンの探索。帰るための手掛かりを探さないと。

とりあえずはこの3つかな。というかこの3つくらいしかないか。優先順位も何もないな。整理しようとした甲斐がない。

だが、僕はここに来て気付いた。強くなるにはレベルアップすればいい。つまりモンスターを倒せば強くなる。逆に考えれば、筋トレ等身体を鍛えたり、格闘技を習ったりしなくてもモンスターを倒せばレベルが上がって強くなるのだ。

僕は過去行った筋トレを思い出す。どんなに筋トレしようとも通販で買った震えるベルトを使おうとも、一向に増えることの無かった僕の筋肉。筋肉が増えるとは限らないが、モンスターを倒せば強くなるのだ。ちよつとワクワクしてきてしまった。

そうと決まればモンスターを倒すために武器を装備しないと。何か武器になるような物を探さなければ。

辺りを見回す。

椅子、違うな。傘、最終手段だ。包丁、有りだけどリーチが心許ないな。モンスターがどんな奴なのかもわからないのに短い武器は使いたくない。っとそういえば防犯用に玄関に置いてあるアレがあった。

玄関に向かい下駄箱の下の空間に寝かされたアレを取り出した。

次は防具を考えよう。

……。

服はたくさんあるが、防具になりそうな物が全くない。

仕方ないので動きやすさを優先して高校時代のジャージの上下を着た。身体のサイズが変わってないので全く違和感がない。

とりあえず装備はこんな所か。ステータスを確認しよう。

「ステータスオープン」

名前：高田 勝 年齢：21歳 種族：日本人 所持金：0

LV 1 (10)

STR 1 AGI 1 DEX 1

VIT 1 INT 1 MND 1

FP 10

HP 150 / 150 MP 150 / 150

ATK 11 MATK 3

DEF 2 MDEF 1

SPD 1 MSPD 1

WEIGHT 5

職業：|

称号：|

信仰：|

アビリティ：【ワープ】

アクティブスキル：|

パッシブスキル：|

状態：|

武器：釘バット

防具：学生ジャージ

他：純銀のピアス

おお。ATKが11になってる。単純に考えてアレである釘バットはATK10あったのか。高校時代に友達と悪ふざけで作った釘バットがここで実際に使われる事になるとは。ってジャージのDEFさりげに1あるし。MATKが上がったのはどっちだ？まあ魔法

スキルも何も覚えてないから別にいいけど。

ああそうだったFPをステータスに振らないと考えたら、数字の横に【+】のボタンのようなのが出てきて、それとは別に全裸の僕の姿が立体映像のように現れた。

説明書には最後に下にある【OK】ボタンを押さないと確定されないと書いてあったので、とりあえずSTRの所の【+】を押すようなイメージをすると、STRが2になった。

取り消せるからと全部STRに振り込んでみる。STRが11になり、ATKが21になった。驚きなのがWEIGHTだろうが15に増えている。

ATKに魅力は感じるがHPも増えていないので、これは無しだと下の【CANCEL】を押した。数字が全部戻るのと同時に隣に表示されていた全裸の僕に違和感を感じる。

何かちよつと変化したような。気になったのでもう一度STRに全振りしてみた。隣の僕の姿に少し違和感を感じる。

取り消して確認。全振りして確認。を何度か繰り返す。

身体のサイズがちよつと変化している？

今度は他のステータスでも試してみた。

間にインターバルの5分を3回くらい、約1時間ほど検証を続けた。

AGI何も変わらず。DEX何も変わらず。VIT変わった？INTとMNDは何も変わらない。

STRとVITで少し身体がガツリしている気がした。もしかして筋量増える？

よし。STRとVITを上げよう。5ずつ上げて【OK】を押した。

名前：高田 勝 年齢：21歳 種族：日本人 所持金：0

LV 1 (10)

STR 6 AGI 1 DEX 1

VIT	6	INT	1	MND	1
FP	0				

HP	400 / 400	MP	150 / 150
ATK	16	MAK	3
DEF	8	DEF	1
SPD	1	MSPD	1
WEIGHT	15		

職業：┆

称号：┆

信仰：┆

アビリティ：【ワープ】

アクティブスキル：┆

パッシブスキル：┆

状態：┆

武器：釘バット

防具：学生ジャージ

他：純銀のピアス

数値でわかったことは、STRの数字がそのままATKに足される事。VITも同じくDEFが上がることで、1上げるとHPが50上がる事だ。

WEIGHTとSPDはFPが10だけだと検証しきれないので、後回しにすることにした。

「ステータスクローズ」

リビングに戻った俺は、ジャージを脱ぎ自分の身体を確認する。

確かに少し筋量が増えた気がするようないような。
その場で腕立て伏せを試みる。

なんと10回も出来た！！

これは驚きだ！3回が最高記録の僕にとって2桁という夢の数字に到達するなんて。

もっとSTRを増やしたら出来る回数が増えるのだろうか。
ダンジョンへ行こう！！

この気持ち勢いのそのままで、躊躇わないうちに行っちゃえ。

「ワープ！ バルバレイダンジョン ！！」

……。

……。

……。

……。

……。

……あれ？

スキル発動するはずだよね？

どうして何も変わらないのかな？

もう一度だ！

「ワープ！ バルバレイダンジョン ！！」

……。

……。

……。

発動しない。なぜだ？

ステータスは開けた。何が違う？

……シヨップ？

ここではシヨップが開けない。スキルも発動しない？

あの部屋でないともしかいして【ワープ】は使えないのか？
黒い部屋へと移動し、中央に立ち一先ず深呼吸。

「ワープ！ バルバレイダンジョン ！！」

言葉の終了と同時に足下に直径が50cm程の幾何学的な文様の
魔方陣らしき光が走ると、僕を包むようにして青い光があふれた。
視界が完全に青い光に包まれたと同時に、自分が何かの力に引
張られたのを感じ、青い光が白へと変化する。

僕は、未知への恐怖とそれと同じくらいの好奇心と、ほんの少し
だけある希望を抱きながら光が消えるのを待った。

プロローグ（後書き）

まだ成分は1%未満といった所です。本編から徐々にパーセンテージを上げていきたいと思っています。

内容に関してはよっぽどの事が無い限り、変える予定はありません。ただ、文章に関してこうすると読みやすいなど、アドバイス頂ければ幸いです。

つたない文章でございますが、よろしくお願いします。

1・1日目（前書き）

ストック無しの順次投入。
少しだけ片鱗を。

1・1日目

視界を埋める白い光が赤く染まりだし、光が消えると【ワープ】する前とあまり変わらない空間にいた。

黒い10畳ほどの部屋というのは変わらず、ただ違うのは青白い光ではなく赤白い光が部屋を仄かに明るくしている。

振り返ると見覚えのあるドアがあり、開けた先は洞窟だった。

つまりあの部屋でのみ【ワープ】とシヨップが使えるのだらう。迷わないようにしないと不味い。

洞窟の広さは横に3m、高さも3mといった半円筒状型である。まるで大きな岩をセツセと掘り進めたようなゴツゴツとした岩肌に、所々に入る亀裂から水が染み出し、さらにその水によ

って光を発する苔のようなものが生えていた。気温としては15℃くらいか、少々肌寒さはあるが風も無く、湿り気のある空気が充満している。

何があっても良いように両手で釘バットを握り直し、ゆっくりと歩く。10mも歩かないうちに前方に光に照らされた何か半透明の物が見えた。

警戒しながらゆっくりと近づいていく。その半透明の物まで10歩程まで近づくと、ハッキリと確認できるようになった。

高さと横は1m程の丸形、乳白色の半透明の身体の表面をウネウネと動かしこちらに向けて動いている。

超有名モンスターであるスライムと言われたら納得の姿。ただゲームで感じるよりも大きくて気色悪い。

そのスライム擬きはこちらには気付いてないのか、動く速度は変わらない。試しに壁際に寄ってもただ道の真ん中を動いているだけで、こちらには来る様子がない。

気付かれないうちに先に攻撃するか、もう少し様子確かめてア

クティブなのかノンアクティブなのか確かめるか。

少し考えた先の結論はやばかったら逃げるといふ事で、様子を確かめる事にした。

まず釘バットで地面を叩いて音を出す——気付かないようだ。ノンアクティブの可能性が上がった。

次はいつでも対処できるように釘バットを構えつつ横歩きをしながら壁際を歩く。スライム擬きとすれ違うが、気付かれた様子がない。

スライム擬き、いやもうスライムで良いな。スライムはどうやらノンアクティブのようだ。こちらから攻撃しない限り大丈夫だろう。たぶん。

だが先制攻撃できるならこちらにとつては十分有利な相手だ。

もしもの時のために逃げ道確保するべく警戒はしながらもスライムの横を通り過ぎ、5歩の距離を取ってカウントを始めた。

スライムが2歩の距離まで近づいてきたら攻撃する。

4歩……3歩……2歩

今だ！

高校の授業で習った剣道を思い出しつつ、大きく右足を踏み込みながら、上段から釘バットを振り下ろす。

ドムツと鈍い手応え。だがスライムに何の変化も起きない。もう一発。一步下がりが右足を踏み込んでの上段からの振り下ろし。

ドムツと変わらない手応え。もう一発だ。同じ動きで下がり釘バットを上段に振り上げた時だった。

スライムの頭頂部から腕のような物が生えたと思った瞬間、胸に衝撃。

痛い！

痛みと共にHPが12減ったのがわかった。

硬直した身体に活を入れて釘バットを踏み込み振り下ろす。もう一発。下がったら今度は腹に攻撃をくらってしまった。

今度は10ダメージを負う。

痛みを堪えつつ踏み込んでの攻撃。

グシャツと釘バットがスライムにめり込むと、そのままボロボロと崩れおちていった。

何とか終わった。HPは22減ったようだが、打たれた胸と腹に痛みは残っていない。

とにかく初戦闘はクリアできた……あれ？

急に膝に力が入らなくなり、景色がグルグルと回り出す。

尻に衝撃——暗転——

「——つつつつはっあっ！？ はっ！ はっ！ はっ！ はっ！ はっ！ はっ！ はっ！」

しかけた所で視界が戻ってきた。

呼吸が徐々に落ち着いてくる。

あー、呼吸するの忘れてた？

身体を起こしつつ、異常がないか確かめる……よし異常なし。

うわぁ、自分が思ってたより緊張していた？ 呼吸忘れるなんて

始めてた。

別にスライムを殺した（？）事に何ら感じる事はないけど、初めての戦闘に達成感に似たような何かを感じている。

ただ若干口の中に残るのは、ダメージを受ける事で感じた痛みによる死に対する苦み。

自分では冷静に対処していたようで、出来てなかった事が悔やまれる。

慣れるしかないな。先に進もう。

歩き出した僕の前に再びスライムが現れたのは約10分後、奥に二叉に別れる道の手前で発見した。

ノンアクティブだろうとわかつてはいるが、もしものためにゆっ

くりと近づき、音を立てるなりして確かめる。
やはり動く以外に何の行動もしてこない。

深呼吸を何度かして再びの戦闘へ突入した。

今度は呼吸を忘れずに、釘バットを振り下ろすと同時に息を吐き出す。

鈍い手応え。すぐに一步下がると同時に息を吸い込み、吐き出しながらの振り下ろし。一步下がる。スライムからの攻撃、避け――
れずに腹に衝撃。10ダメージ。

痛みに歯を食いしばりつつ、息を吐き出しながらの振り下ろし。
スライムからの攻撃を避けようと先に右後方に移動――が左脇腹に
衝撃。11ダメージ。

ちくしょうっと思いつつ、息を吸い込み、今までと違い左足を
斜めに踏み込みつつ袈裟懸けに振り下ろす。その一撃がスライムに
めり込み、崩れ消滅する。

後には何も残っていなかった。

少し荒れた空気を幾度かの深呼吸で整え、とりあえず今回わかつた事を考える。

先制攻撃だからか、1撃目に反撃はないが2撃目の後は1撃の攻撃毎に反撃が来る。たぶん何処に動こうと今の僕の強さでは避けられない。

ATK16で4撃、単純計算でHP64。DEFが幾つあるかわからないので、今はこれで良い。スライムからのダメージは10、12、わかる事は僕のDEFが8あったからATKは20くらい。数字のバラつきから単純にATK・DEF＝ダメージというわけでは無いのだろう。

現在の僕のHPは……そう考えると脳裏に365と浮かんた。総計43のダメージだったのに計算が合わない。時間で回復してるのか他に何かあるのか。

座って時間で回復するか確かめてみる。

5分程でHPを確認するが365と何も変わっていない。もう少し確かめよう。

更に5分程で確認するが変わらず、先に進もうと立ち上がった俺の前に乳白色のプルプルした物体が地面から湧き出てきた。スライムだ。

一定時間で復活する仕組みなのかな？

まあ、とりあえず戦闘だ！

4発目の僕の釘バットがスライムに叩き付けられるとスライムはバラバラになり消えた。相変わらず避けることができにくかったダメージは19と22の総計41。

自分のHPを確かめたら328だった。4回復してる。今まで倒した3体で12回復した計算だから、1体倒すと4回復するようだ。よしもう一度ここで戦闘しよう。

その場で座って10分ほど待つと、さっきと同じようにスライムが湧き出てきた。

さあ戦闘だ。

4発目の釘バットの振り下ろしをくらい、スライムがバラバラになると同時。

ピロリロリーン

脳内に効果音のような音が流れる。

もしかしてレベルアップ？

「ステータスオープン」

名前：高田 勝 年齢：21歳 種族：日本人 所持金：0

LV 2 (10)

STR 6 AGI 1 DEX 1

VIT 6 INT 1 MND 1

FP 10

HP 292 / 500 MP 250 / 250

ATK 16 MATK 3

DEF 8 MDEF 1

SPD 1 MSPD 1

WEIGHT 15

職業：|

称号：|

信仰：|

アビリティ：【ワープ】

アクティブスキル：|

パッシブスキル：|

状態：|

武器：釘バット

防具：学生ジャージ

他：純銀のピアス

やっぱりレベルアップしていた。あの効果音がレベルアップなの
だろう。更にゲームみたいだ。

HPとMPが100ずつ増えている事とレベルアップしてもHP
は元に戻らない事が伺える。

ふむ。ここは思い切ってこうしよう。

名前：高田 勝 年齢：21歳 種族：日本人 所持金：0

LV 2 (10)

STR 16 AGI 1 DEX 1

VIT 6 INT 1 MND 1

FP 0

HP 329 / 500 MP 250 / 250

ATK 26 MATK 3

DEF 8 MDEF 1

SPD 1 MSPD 1

WEIGHT 25

職業：|

称号：|

信仰：|

アビリティ：【ワープ】

アクティブスキル：|

パッシブスキル：|

状態：|

武器：釘バット

防具：学生ジャージ

他：純銀のピアス

STRに全部振ってみた。WEIGHTが増えすぎ。そして隣に表示された全裸の僕の身体が少し大きくなった気がする。

思い切って【OK】を押す。

「ステータスクローズ」

やっぱり身体が少しゴツくなっている気がする。
さあ、戦闘して確かめよう。

10分後の戦闘では、スライムを3発で倒し、21のダメージ1
発で済んだ。4の回復を含めれば1体で17のダメージ。まだ戦え
るが、何か身体が重い。

この場でもう少し戦おう。

1時間少々この場で6体倒し、HPが210になった所で、戻る
ことにした。

途中で1体のスライムと戦い、赤い光の黒の部屋に入る。
「ワープ！ マイルーム ！！」

赤い光から白い光へ、そこから青い光へと変化し、青い光の黒の
部屋へと戻ってきた瞬間、脳内に文字が浮かんた。

『スライム12——60 TOTAL60』

チャリーンつと音がして所持金が60増えたのがわかる。
なるほど、こういう仕組みなのか。モンスターのドロップが無い
からどうなるのかと思ってたら。

特に買い物の必要は無いと思い、そのままリビングへ。

時刻は14時半くらいか。2時間半くらいいた計算になる。

初めてだからか、凄く疲れた。精神的に。

今日はもうここで終わりにして、ゴロゴロして過ごした。

1・1日目（後書き）

夜中にもう1話投入予定。
次は3日目だよ。

2・3日目、4日目（前書き）

あっさりさっくりポコポコ進ませることに。

表現力の無さに辟易しつつ、楽しんで貰えたら幸いです。

2・3日目〜4日目

「はっ！」

気合いの声と共に突き出された僕の拳がスライムの身体を粉々にする。

ピロリロリン

今日始めて鳴ったレベルアップの音に、安堵の息をこぼした。
やっとだ。やっとレベルが上がった。

3日目の今日、朝からダンジョンにこもり始めてから、9時間超が経過していた。倒したスライムの数は80を超えるはずだ。

昨日は1時間に9体のスライムを狩れる場所を見つけ、レベルが4になると1撃で倒せるようになり、そのまま狩り続けレベル5に到達していたのだが。異変はステータスを振り分けた後に判明する。

「ステータスオープン」

名前：高田 勝 年齢：21歳 種族：日本人 所持金：

400

LV 6 (10)

STR 45 AGI 1 DEX 1

VIT 7 INT 1 MND 1

FP 10

HP 850 / 950 MP 350 / 400

ATK 45 MATK 1

DEF 7 MDEF 1

SPD 1 MSPD 1

WEIGHT 52

職業：┆

称号：┆

信仰：┆

アビリティ：【ワープ】

アクティブスキル：┆

パッシブスキル：┆

状態：┆

武器：┆

防具：黒のボクサーブリーフ

他：純銀のピアス 白のスニーカー

WEIGHT55これが問題だった。45は身体重いかと思う程度で止まっていたのに、55になってステータスを閉じた後のあの重さ。

重力が増したような、身体全体がとにかく重く、少し動くだけで息切れと倦怠感が襲ってくるほど。

とにかく少しでもWEIGHTを減らすためジャージを脱ぎ、釘バットを使わずに素手で戦い始めた。

スライムには素手の1撃で倒せるのには驚いたが。

そして重い身体を使いやつの事でレベルが上がったのだ。

AGIを上げればWEIGHTが下がったはず。

上げようと考えると自分の裸の映像が現れる。

もうそこに見える僕は、すでに2日前までの僕とは別人とも言えた。

腕肩胸腹足全てに筋肉が付き、腹筋なんて割れている。なのだが全体的にバランスが悪い。

更にSTRとVITに振り込み筋肉を上げたい欲求を退け、AGIを1上げる。するとWEIGHTが半分の26になった。1つ上

げただけなのにこの効果は、さつさと上げてれば良かった。
もう1つ上げると17になり、4にしたら13になった。予測されるのは“ $\text{STR} + \text{VIT}$ ” / $\text{AGI} + \text{装備}$ ”だろうか。
DEXを上げてみても変わらない事から、これが正しいのではと考える。ただSPDが増えないので、SPDとの関連性はまだわからない。

とりあえずこうしてみた。

名前：高田 勝 年齢：21歳 種族：日本人 所持金：400

LV 6 (10)

STR	45	AGI	6	DEX	1
VIT	12	INT	1	MND	1
FP	0				

HP	850 / 1200	MP	350 / 400
ATK	45	MA TK	1
DEF	12	MDEF	1
SPD	1	MSPD	1
WEIGHT	9		

職業：┆

称号：┆

信仰：┆

アビリティ：【ワープ】

アクティブスキル：┆

パッシブスキル：┆

状態：┆

武器：┆

防具：黒のボクサーブリーフ

他：純銀のピアス 白のスニーカー

V E I TとA G Iに5ずつ。いやだってほら、筋肉が増えないのも寂しいからさ。筋肉も少し引き締まり、全体的なバランスが良くなった。

これで決まりと【OK】を押す。

「ステータスクローズ」

ダンジョンに意識が戻った僕は、とりあえず身体を動かしてみる。
軽い！
目的も達したし帰ろう。

帰る途中で出くわすスライムをワンパンチで殺しつつ、部屋へと戻った。

『スライム92——460 TOTAL460』

所持金が860になった。3日目でもう残り140だ。余裕で光熱費と賃料は払える計算だが、食材や武器防具を考えるとまだまだ必要なはず。

さあ明日も頑張るぞ。

4日目の今日は20体近くを2時間で倒しているが、そろそろ探索に出ようと思う。

昨日はWEIGHTのためにパンツ丁で戦っていたが、今日は

ちゃんとジャージを着ている。増えた筋肉のおかげでピチピチになっ
てはいるが、特に問題はない。

釘バットは持ってきていない。殴った方が早いから。
とにかく前に進もう。

1 時間経過——特に何も無く何体かのスライムを瞬殺。

2 時間経過——小部屋を発見。中に入ると数体のスライム。スライムはリンクする事がないようなのでそのまま撃破で他の場所へ。

3 時間経過——また小部屋を発見。中には宝箱らしき物が！開けたらチャリンという音と共に所持金が50増えた。やったー！

4 時間経過——小部屋に比べて少し広い中部屋を発見。奥には宝箱が！喜び勇んで開けると

ファンファンファンファン

パトカーのサイレンのような音が鳴り響いた。

焦って振り向くが、中部屋のあちらこちらから湧き出てくるスライム。

なんだスライムか。特に問題はないと思っていたら、近くのスライムの頭頂部が変形、腹に衝撃が走る。6ダメージ。上がったDEFのおかげでダメージこそ少ないが痛い事は痛い。

そうこうしている間にもう一発くらい9ダメージ。すぐに反撃して撃破。だが背中に衝撃。続けざまに左肩。

痛い痛い痛いー！！

やばくね？ これやばくね？

とにかく目に付くスライムを殴るが、その倍以上の手数 of 攻撃をくらう。

痛い！ とにかく痛い！

くそーーーっ！

気付いたら完全に囲まれ途切れることのない衝撃が身体を揺らす。
衝撃で身動きが出来ない。

いたいたいいたいたいいたいたいいたいたいいたいたい
!!!!!!!!!!!!

くそ！

くそ！

くそ！

1200あった筈のHPが800を切る。

着ていたジャージもすでにボロ切れとかしている。

やばいやばい！！

せつかくつよくなれるのに！！

せつかくきんにくがつきはじめたのに！！

しにたくない！！

しにたくない！！

ぼくのきんにくううううう！！

ピレレレレーン『信仰を取得しました』

その声と共に頭の中のスイッチが押される。

ぼくはぼくはぼくはぼくは——おれはっ！

「ふはははははははははは——！！」

俺の筋肉が負けるはずがないわぁ！！

右手で前方のスライムを殴り、左手でその隣を殴り、横殴り、裏
拳。

その間に何発も攻撃をくらうが

「かゆいわかゆいわ！」

この程度の痛みなど痛みにならず！

「フンッ」

殴る。

「フンッ」

殴る。

「フンッ」

殴る。

「フンッフンッフンッフンッフンッフンッフンッ」
殴る殴る殴る殴る殴る殴る殴る。

「フンッフンッフンッフンッフンッフンッフンッフンッフンッ」
殴る殴る殴る殴る殴る殴る殴る殴る殴る殴る。

「はっハッハッハッはっハッハッハッ」

最後の一撃い！！

中部屋内のスライムの殲滅終了。

ピリリルルーン『アビリティを取得しました』

その音と共に頭のスイッチが切り替わる。

あれ？ ぼくは……？

生き残れた？

意識が無かったわけじゃない。

別の人格になったわけじゃない。

ただどさっきのあれも僕だと確信できる。

全ては『信仰を取得しました』という音声が聞こえてからだ。

「ステータスオープン」

名前：高田 勝 年齢：21歳 種族：日本人 所持金：920

LV	6	(10)		
STR	45	AGI	6	DEX
VIT	12	INT	1	MND
FP	0			1
HP	172	/1200	MP	400/400
ATK	81	MATK	1	
DEF	12	MDEF	1	
SPD	1	MSPD	1	
WEIGHT	9			

職業：ー

称号：ー

信仰：【筋肉の誓い】

アビリティ：【ワープ】 【アイアンの拳】

アクティブスキル：ー

パッシブスキル：ー

状態：ー

武器：アイアンの拳

防具：黒のボクサーブリーフ

他：純銀のピアス 白のスニーカー

HPもやばかったのがわかるが、ATKが増えていることと【アイアンの拳】が気になる。そして何よりも【筋肉の誓い】って何？
まず【アイアンの拳】に集中する。

“【アイアンの拳】：素手でモンスターを屠り続けると得られる鉄の拳。素手が武器扱いとなる。ATK+30”

なるほど。

次に【筋肉の誓い】に集中する、。

“【筋肉の誓い】我々筋肉一同は、マッスルゴッドにとり、
正々堂々と筋肉を披露します。筋肉に攻撃を受けると、状態【^{マッスル}筋肉
酔い】になる。状態異常無効”

なんだこれ！？

^{マッスル}ハイ
【筋肉酔い】ってなんだよ。

“【^{マッスル}筋肉酔い】：奥底に眠った自身の願望と筋肉の願望により、
理性が失われ本能のみとなる。ノックバック無効”
ちよつと待て。

自身の願望って、あれが僕の本能だと？

でもノックバック無効のおかげで助かったのも【筋肉の誓い】の
おかげとも言える。

うーっ、疲れた。とりあえず帰ろう。

『スライム103——515 TOTAL515』
帰ったら所持金が1435になった。うん。防具を買おう。

2・3日目、4日目（後書き）

成分10%にはなつたかな。

チートの片鱗も見せ始め、とりあえず一つの区切りまで到達。

次話から更にチート化するかも。

【マッスルハイ】を【筋肉酔い^{マッスルハイ}】に変更。

3・5日目～12日目（前書き）

ストック無しとか無謀だと今更ながらに気付く。
休みの日をほぼフルに使って4話です。来週の休みにストックできたらいいな。

次の更新は日付変わってからかな。

3・5日目、12日目

今日は5日目。お金は目標額の1000まで貯まったが、防具に費やそうと考えている。今のペースなら再び1000異常を稼ぐ事が出来るからだ。

「ショップオープン」

暗転し、現れた文字欄の中から防具を選ぶ。

“布類” “皮類” “金属類” “希少類”

前に好奇心で希少類を見てみたのだが、最低でも0の数か6個からだったので、もう見ないことにしている。

WEIGHTと金と必要DEFを考えると、皮類が僕が今必要な防具なはずだ。

“ウルフのジャケット	DEF+10	WEIGHT+3	95
0”			

これが良い。買おう。

チャリン

右下にあった所持金額が485に減った。

次に“料理”を選択。

“ハンバーガー100”を選ぶ。

チャリン

「ショップクローズ」

黒の部屋に戻ると目の前に小さな箱に入ったビッグ。ツクと白い毛皮のジャケットが置いてあった。

ハンバーガーってそれ？ オリジナルかと思ってたのに、まあ嬉しいけど。

ジャケットを着てみると詠えたかのようにジャストフィット。
ちなみにグレーのスウェットと白のロンティーの上に着ているのでファッション的には有り得ない。だが誰も見る人が以内のかまわれない。

ビッグ。ツクを持ってリビングに戻り朝食にした。

「ワープ！ バルバレイダンジョン ！！」

青から赤への光の移動を経て、ダンジョン到着。

DEFも+10された事だし、昨夜寝る前に考えた案を実行に移すことにする。

昨日通った道を出会すスライムを拳で粉碎しつつ最短で進む。1時間後に到着したのは昨日のアラームトラップのある中部屋。

色々考えた結果、もっと強いモンスターと戦う前に強くなるう作戦。RPGでいうレベル上げを効率よくやろうと思っただけ。

今までスライムから受けたダメージを検証した結果、ATKは20、それに比べて僕の今のDEFは22、ダメージは通らない計算だ。

囲まれようとダメージが通らなければ死ぬことはない。【マッスルハイ】にもならないだろう。たぶん。

中部屋の奥に行き宝箱の前で深呼吸を何度かした後、思い切って宝箱を開けた。

ファンファンファンファンファン

振り向くとそこには多数のスライムが生えてくる。

とりあえず計画は成功の方向へ進んでいる。トラップが一度つきりでなくて本当によかった。

まず目の前に出てきたスライムを殴殺する。すぐに隣のスライム

も殴殺。そしてもしものために衝撃に備える。

ドンツと胸の辺りに衝撃。少し痛いかなあっと思うと、ダメージ1くらった。

あー、そういうシステムかー。

頭の中のスイッチが切り替わる。

「ふあっはっはっはっはっは！」

スライムに囲まれているが、今は一番邪魔な物がある。

「こんなもん邪魔じゃああ！」

着ていた毛皮を破り裂き、その下のシャツも破り裂き、スウェットも破り裂く。

「見よお！ 俺の筋肉ううううう！！！」

しかしスライム達は俺の肉体に攻撃を加えてくる。
俺の筋肉に触れるんじゃねえ！

「オラァ！」

殴る。

殴られる。殴られる。殴られる。殴られる。

「オラァ！」

殴る。

殴られる。殴られる。殴られる。殴られる。

「オラオラオラオラオラオラオラァ！」

殴り殴られ殴られ殴られ殴られ、殴り殴られ殴られ殴られ、殴る。

「オラオラオラオラオラオラオラオラオラオラァ！」

殴り殴られ殴られ殴られ、殴り殴られ、殴る。

とりあえず確認しよう。

「ステータスオープン」

名前：高田 勝 年齢：21歳 種族：日本人 所持金：
385

LV 7 (10)

STR	45	AGI	6	DEX	1
VIT	12	INT	1	MND	1
FP	10				

HP	784	/	1300	MP	400	/	450
ATK	81		MATK	1			
DEF	43		DEF	1			
SPD	1		MSPD	1			
WEIGHT	9						

職業：ー

称号：ー

信仰：【筋肉の誓い】

アビリティ：【ワープ】 【アイアンの拳】 【アイアンの肉体】

アクティブスキル：ー

パッシブスキル：ー

状態：ー

武器：アイアンの拳

防具：アイアンの肉体 黒のボクサーブリーフ

他：純銀のピアス 白のスニーカー

増えてるね。DEFも一杯。

【アイアンの肉体】説明見なくてもわかるような気がするけど、
見とこう。

“【アイアンの肉体】：素肌でモンスターから攻撃を受け続ける
と得られる鉄の肉体。肉体が防具扱いとなる。DEF+30”

予想通りだよ。

でもDEF高いなあ。これなら装備なくてもダメージ1で済むだ
ろうな。

必ずくからうからHPも上げないとまずいか。もしものためにDE
Fも上げないとだし。
こっしよっ。

名前：高田 勝 年齢：21歳 種族：日本人 所持金：
385

LV 7 (10)

STR	45	AGI	6	DEX	1
VIT	22	INT	1	MND	1
FP	0				

HP	784/1800	MP	400/450
ATK	81	MATK	1
DEF	55	MDEF	1
SPD	1	MSPD	1
WEIGHT	11		

職業：ー

称号：ー

信仰：【筋肉の誓い】

アビリティ：【ワープ】【アイアンの拳】【アイアンの肉体】

アクティブスキル：ー

パッシブスキル：ー

状態：――

武器：アイアンの拳

防具：アイアンの肉体 黒のボクサーブリーフ

他：純銀のピアス 白のスニーカー

こんなところか。筋肉も増量したし、良しとしよう。

HPは半分以下だけど、くらうダメージは1だろうし、このまま今日はここで頑張りますか。

「ステータスクローズ」

背後の宝箱の蓋を閉める。

深呼吸を何度かして、蓋を開ける。

……。
……。

サイレンが鳴らない。

一日一回とか？

一度外に出ないとだとか？

いや、きつと10分毎にモンスターが出現するのと一緒に、時間が経たないと駄目なのだろう。

10分後――鳴らない。

20分後――鳴らない。

30分後――ファンファンファンファン

鳴ったよ！ 良かった30分毎なんだな。

さあ狩りの始まりだ。

2時間後——4回転でHPは248減った。レベルは上がらない。
4時間後——HPは235減った。残りは301。レベルは上がらない。今日はもう帰ることにする。

『スライム238——1190 TOTAL1190』

びっくりした。確かにそれくらい倒してたけど、ウルフのジャケツトの代金は取り戻した。

夕飯は炒飯200と醤油ラーメン150にした。普通に美味かった。

6日目の朝食はサンドイッチ100。

シヨップのアクセサリを適当に見てたら、面白いのを見つけた。

“4次元ドッグダグα アイテムを入れる事のできるドッグダグスロット10×10 1000”

これは買いだよね。きつとアクセサリなら壊す心配はないはず。たぶん。大丈夫だよな僕？ いや俺？

買おう。ついでにお昼用にハンバーガー100も買う。これで残金15。

買ったドッグダグを身につけ、ビッグ。ツクをドッグダグに近づける。

「ビッグ。ツク吸入」

そう言うビッグ。ツクがドッグダグに吸い込まれる用に消えた。取り出したい時はビッグ。ツク現出と言えば出てくる。10種類、各10個まで入れられるらしい。

準備も整ったので、昨日とは別のシャツとスウェットの姿でダンジョンに向かう。

中部屋到着後。シャツとスウェットを脱ぎドッグタグに入れ準備完了。

2 時間後——4 回転でダメージ 241。レベル上がらず。

3 時間半後——3 回転終了でダメージ 172。レベルが 8 に上がる。全て VIT に注ぎ込んだ。

4 時間後——1 回転でダメージ 59。1 時間の休憩を取ることにする。

5 時間後——ビッグ。ツク食べたなら飲み物欲しくなった。明日は飲み物持つてこよう。HP と MP が 50 回復した。

7 時間後——4 回転でダメージ 249。

9 時間後——4 回転でダメージ 240。帰ることにする。

『スライム 418——2090 TOTAL 2090』

一日 2000 オーバーは美味しい。明日もやろう。

今日の夕飯はサンマ定食 300 にした。

7 日目の朝食は牛丼 100 にして、お昼のために唐揚げ弁当 200 とミネラルウォーター 500 ml 10 × 10 個をドッグタグに入れダンジョンに出発。

昨日と同じように 1 時間の昼休憩を挟みスライムを狩り続ける。

16 回目の最後の戦闘終了後にやっとレベルが 9 になる。再び VIT に全てを捧げた。何か不器用になった。DEX 上げないと駄目かな。

お金がいっぱい入ったので、今日はちょっと豪勢に夕飯に 500 使った。満足した。

8日目、レベルが上がらず、お金だけ。

9日目、レベル上がらず。

10日目、レベル上がらず。日付が変わる頃に勝手にお金が1000減った。一杯あるから良いけど。

11日目、レベル上がらず。

12日目、3時間ほど狩っていたら念願のレベルアップをした。やつとこさ10だ。

「ステータスオープン」

名前：高田 勝 年齢：21歳 種族：日本人 所持金：11350

LV 10 (10)

STR	45	AGI	6	DEX	1
VIT	42	INT	1	MND	1
FP	10				

HP	2808	/	3100	MP	550	/	600
ATK	100		MATK	1			
DEF	96		DEF	1			
SPD	1		MSPD	1			
WEIGHT	14						

職業：ー

称号：ー

信仰：【筋肉の誓い】

アビリティ：【ワープ】【アイアンの拳】【アイアンの肉体】【無形種の天敵】

アクティブスキル：ー

パッシブスキル：ー

状態：ー

武器：アイアンの拳

防具：アイアンの肉体

白のボクサーブリーフ

他：4次元ドックダグ 白のスニーカー

【無形種の天敵】は無形種系のモンスターに対して1.5倍の攻撃力になるアクティブスキルだ。今ではオーバーキルにも程があるが。

LV10の10が赤くなっている。隣の（10）からしてもしかしてこれで上限？

一応目標であった10にもなったので、ポイントを振って帰るところにした。

名前：高田 勝

年齢：21歳

種族：日本人

所持金：

11350

LV 10（10）

STR

45

AGI

7

DEX

7

VIT

45

INT

1

MND

1

FP

0

HP

2808/3250

MP

550/600

ATK

100

MATK

1

DEF

100

MDEF

1

SPD

1

MSPD

1

WEIGHT

12

職業：ー

称号：ー

信仰：【筋肉の誓い】

アビリティ：【ワープ】 【アイアンの拳】 【アイアンの肉体】 【

無形種の天敵】

アクティブスキル：ー

パッシブスキル：ー

状態：ー

武器：アイアンの拳

防具：アイアンの肉体 白のボクサーブリーフ

他：4次元ドックダグ 白のスニーカー

赤い光の黒の部屋に着き、ワープする。

『スライム171——855 TOTAL855』

『日本人の上限レベルに達しました。異種族もしくは日本人 への転生が可能となります。お選びください』

声が頭の中に響いた。

そういうことか。異種族への転生ができるのは面白いかもしれない。きっとエルフだとかドワーフ、レベル上限の高い種族へと転生することも可能なのだろう。

だが僕は日本人だ。確かに今を楽しんで生活している事は認めよう。憧れだった筋肉も手に入れた。ヘビー級のボクサー以上の筋肉だと言える。だが、まだ元の世界に帰ることを諦めたわけではない。だから僕は選ぶ。日本人を。

僕は日本人を選ぶ。

『日本人 が選ばれました。 転生へのカウントダウンに入ります。
1 0 … 9 … 8 … 7 … 6 … 5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 転生を始めます』

身体が溶けていく。溶けていく。溶けていく。

溶けた身体が光の中を進む。進む。進む。

白の世界を漂う。漂う。漂う。

そして僕は目を開ける。新たな肉体を得て。

3・5日目～12日目（後書き）

これで成分20%。

まだまだマツスルチート化は序の口ですよ。

目指すはスーパーサイヤ人第三段階。いわゆるトランクス失敗ver。

4・27日目（前書き）

ちよつとプロットを変えていたため、予定よりずっと遅くなってしまいました。

たぶん今後は飛び飛びの日付で、サクサクッとダンジョン編を進ませて最強にしていく予定です。

4・27日目

前方の巨大スライム、後方のマツチヨ。

ダンジョンの一番奥だと思われる場所へ3時間かけて到達した僕は、大部屋でボスと思われる巨大スライムに出会った。

楕円形のドームの奥で鎮座するスライムは、こちらへ攻撃してくることはなく、巨大だろうとノンアクティブのようで、僕は転生によつて得たスキルを使い、妖精さんを召還して今に至つたわけである。

妖精の身長は驚きの2m、艶光りするツルツルの、スキンヘッドはムキ卵。芸能人もビックリの、白いその歯を煌めかせ、0円よりも金をくれ、そんなスマイル100万ドル。どんなプロテイン使っているの、と聞きたくなるのはムキムキ筋肉。ビキニパンツを身につけて、筋肉を見るとポーjing。彼は兄貴、妖精兄貴。

マツチヨ ポーjing

兄貴の応援を受けて、僕も負けじと筋肉を盛り立たせる。気持ちだけは攻撃力が上がった気がする。

深呼吸を数回、さあ戦闘だ。

巨大スライムに手が届く位置まで移動し、ボクシングの基本姿勢アップライトスタイルで構える。

右足で地面を蹴り左足で踏み込み、その勢いを右拳に乗せて全力のストレート。

拳が巨大スライムに当たった瞬間、パンツと見事にハジケ飛んだ。もしかしてと思っていたが一撃でした。攻撃をくらわなかったので【筋肉酔い】になる事もなく終了。背後を見ると、妖精さんが親指を立てて消えてった。

短いため息を漏らした後、巨大スライムによつて塞がれていた奥

のドアへと歩きながら思い出す。15日前の転生後のことを。

白い光を抜けて前と変わらない黒の部屋で目覚めた僕の頭に最初に聞こえたのは『転生を完了しました』の声。

続けざまに、

ピリルン『称号【超越者】を取得しました。スキルを取得できません。お選びください』

と聞こえ勝手に暗転、“索敵”“鑑定”“武器術”“体術”“魔装術”“魔砲術”“信仰術”“精霊召還術”“妖精召還術”“魔獣召還術”と選択肢が現れた。

武器術と魔装術や魔砲術に信仰術は却下。体術には惹かれるが、たぶん索敵と鑑定の2つがあれば便利になるだろうと思う。

だがしかし、僕は迷わず“妖精を召還する”を選んだ。

だってもうずっと一人だし、そろそろ話し相手欲しいし。

妖精というのだから、様々な物語に出てくるフェアリーのように、小さくて可愛くてお喋りで、きっと僕を癒してくれるんだろうと夢見てた頃がありました。はい。

その後ステータスのアクティブスキル欄を見て絶望した。

【妖精召還術】：HPとMPを共に1%捧げる事で、妖精を召還できる。召還可能妖精【兄貴】マッチョ

実際は大きくてムサくて無口で、まったく癒しの存在しない兄貴マッチョでした。

【兄貴】マッチョ：筋肉から生まれたと言われる妖精。穏やかで純粋な筋肉を持ち笑顔を絶やさない。筋肉で魅せる後衛応援型。

しかも後衛応援型という後ろで応援ボーシングしているだけ。

支援ではなく応援。ATKが上がった気がするの、本当に気がただけだった。確認済みだ。

他は称号に【超越者】が付いたこととLVが1（20）になったこと。【筋肉の誓い】に変化してたけど説明は一緒。その他は変わってなかった。

そう変わってなかったのだ。転生する前の数字と転生後の数字がLVが1になったにも関わらず、ステータスが同じ。

その後の戦闘でわかったことだけど、LVが2になるのに前はスライム5体だったのに対して今回は10体かった。単純に考えて経験値は2倍必要になったようだ。それでもステータスがそのままだったのは嬉しかった。僕の筋肉が減ってないって事だから。

その後13日の間をレベルアップに費やして、転生から15日目の今日やっとボスらしき巨大スライムに到達したのである。

戦闘はずっと妖精マッちょさんには応援ボーシングしてもらってたよ。熟練度が上がれば新たな妖精さんを得られる可能性があるからね。

そんなわけで、兄貴マッちょの応援ボーシングを受けつつ一撃で巨大スライムを撃破したドアの先は、大きな木々がアーチとなって出来た林道でした。

道幅や高さは前のダンジョンと変わらず、景色が林道と変化しただけ、生い茂った木の葉の隙間から光が漏れているが、その光が太陽なのかどうかはわからない。ために木々の間に足を踏み入れようとしたが、見えない壁に阻まれて先へ進めない。

つまりダンジョンの新しいフロアに移動したのだろう。背後を見ればドアはそのまま道を塞ぐように存在している。

戻れるのかとドアを開けたその先は、どういうわけか赤い光の黒の部屋だった。

もう一度ドアを開けるが、先は林道。前の洞窟には戻れないのか。とりあえず自室へは簡単に戻れるようなので、戻ることしよう。

「ワープ！マイルーム！！」

赤い光から青い光へ。いつもの青い光の黒の部屋へと移動する。

スライム	33	165
スライムキング	1	1000
フロア1攻略	1000	TOTAL 2165

なんとボスだろっスライムキングのお値段1000でした。ボスだからだよな。

今日はフロア攻略記念と一人ビール片手にお祝いしようと決めた。寂しいけど兄貴は呼ばない。

翌日、朝食を済ませ準備を終えた僕は、日課となったステータス確認をする。

名前：高田 勝 年齢：21歳 種族：日本人 所持金：17110

LV 10 (20)

STR	125	AGI	17	DEX	17
VIT	125	INT	1	MND	1
FP	0				

HP	8250 / 8250	MP	1100 / 1100
ATK	417	MA TK	1
DEF	417	MD EF	1

SPD 7 MSPD 1
WEIGHT 12

職業：ー

称号：【超越者】

信仰：【筋肉の誓い】

アビリティ：【ワープ】 【シルバーの拳】 【シルバーの肉体】 【

無形種殺戮体】

アクティブスキル：【妖精召還術

】

パッシブスキル：ー

状態：ー

武器：シルバーの拳

防具：シルバーの肉体

黒のボクサーブリーフ

他：4次元ドックダグ 皮革地下足袋

シルバーの拳

はATK+180、シルバーの肉体

はDEF+180。シルバーはアイアンの が5つとなった
後に変化した。初期で+100だったのが 1つにつき10増えて
いき現在180となった。そしてSTRとVITの極振りの結果、
ATKとDEFは共に417まで成長したのである。

そこに無形種に対して2倍の攻撃力になる【無形種殺戮体】が発
動しATK834がスライムキングに向かった。自分でやつという
言うのもなんだが、ご愁傷様と最後の言葉を贈ろう。

ちなみに皮革地下足袋はSPD+1してくれる12000で買った
装備である。足袋を初めて履いたけど、これは素晴らしすぎる。
性能以上に柔軟で動きやすく、SPDが上がるのも納得と言えるだ
ろう。

【妖精召還術

】は が増えてるが、いまだ兄貴以外出てこ
マッテヨ

ない。

そして【ワープ】で行ける場所が バルバレイダンジョン フロア1〜2 マイルーム に変化していた。

またフロア1にも行けるようだが、スライムキングと戦えるのならまた行っても良いと思う。とりあえず今は先に進もうと思っているが。

ステータスを閉じた後、鏡に映る自分の姿を見て思う。ずいぶんと変わったなど。

転生したことで骨の太さ、骨格が変化したようで、身長も心なしか伸びた。体重は驚きの20kg増量。転生前に量ってないので転生が原因とは限らないが。

筋肉は言わずもがな増量中。体重分増えているはず。そして最近のお気に入りは上腕二頭筋。昔の僕には出来なかった力瘤がモリツと出来上がるこの瞬間がたまらない。カッチカチ言ってたあの芸人の何処がカッチカチなのかと言えるぐらいのカッチカチさも自慢だ。ああ、早くこの僕の筋肉を誰かに見せたい。いや魅せたい――

―はっ、僕は何を……筋肉を見せたいだなんて、思ったこと無かったはずなのに……いやでもこの筋肉を見せたいと思うのは自然なことだよ。そうだよ。おかしいことは何も無い。うん。

だからもっと、もっと強くなろう。筋肉を増やそう。

何かに急かされるように僕は、パンツ一丁に地下足袋姿で黒の部屋へと飛び込み、フロア2へとワープした。

4・27日目（後書き）

ちなみにフロア1の適正クリアLVは7だったりします。

AGIを優先的に上げるとSPDが上がり、スライムに対して攻撃回数上がり、被攻撃回数も下がり、貯めたお金で買った武器の攻撃力で十分勝てるようなフロア1でした。

ボスの一撃クリアは想定外すぎる事態ですねー。巨大スライムのアクティブスキルまで作ったのに無駄に終わった。

妖精さん《マッチョ》の今後の活躍にご期待ください。

5・28日目〜36日目

28日目〜30日目

フロア2に現れたのは枝が寄せ集まって人型を象ったブランチャ
ーという名のモンスターだった。

アクティブモンスターのようで、こちらに気付くと攻撃してくる
のだが、適当に殴ったらバラバラになる。

フロア2を探索する。偶に見つける宝箱からお金をゲットするが、
特にトラップ的な何かがあるわけでもなく、ボス部屋らしき広い空
間に到達したのは、探索を始めてから3日目の昼頃、現れたのは動
く木だった。

高さが3Mほどの木は先端に瘤のある長い枝を2本振り回してい
る。

遠距離からの攻撃手段の無い僕は、近づいて攻撃しないとならな
いが、今の僕なら多少被弾しても勝てないはずは無いだろう。

とりあえず背後にいる妖精^{マッチョ}さんにアイコンタクトで行くぞと見る
と、筋肉を盛り立たせて応援で返事をする兄貴^{マッチョ}。僕も筋肉を盛り立
たせると木へと向かった。

僕が近づいていくと、枝を振り回すのを止める木。

そのまま約15mまで近づくと枝が振られる。

右からの1発目——しゃがんで避ける——成功！

左からの2発目——前に転がって避ける——成功！

転がった勢いからそのまま立ち上がり前にダッシュすると頭上に
瘤が見えた。予想しなかった3発目——避ける暇もなく背中に衝撃。
ダメージ自体は1と少ないが、ノックバックで走りが止まり、そし
て頭のスイッチが切り替わる。

俺は後6歩ほどの所にいる木に向かい大きく一歩前に出る。

右から振られてくる瘤。

「ぬおおおおおおお！」

バキヤアッ！

右拳で殴り粉碎。一歩前に出る。

左から振られてくる瘤。

「ぬうううううううん！」

バキヤアッ！

左拳の裏拳で粉碎。一歩前に出る。

頭上から振り下ろされる瘤。

「ふん！ぬうあああああああ！」

両手で掴み頭突きで粉碎。一歩前に出る。

木にはもう攻撃手段が無いのか、ただ佇むのみ。

「これで俺の番だな」

俺は肩の筋肉を解すように右腕を回すと、

「ぬおりやあああああああああつ！」

木の中心へと拳骨を叩き付けた。

バカンッ！

「もいつちよおおおおおおおおおつ！」

ドガンッ！

バキバキバキバキッと殴りつけた中心から縦に避けていくと左右に倒れ消えていった。

「おおおおおおおおおおおつ！」

勝利の雄叫びのまま頭のスイッチが切り替わる。

確かに避けるよりも迎撃した方がよかったなあつと戦闘を振り返る僕。

でも迎撃といえどダメージはくらうので、ノックバックで身体が止まるだろうと考える。【マッスルハイ】のノックバック無効で成り立つ戦闘方法なので参考程度に納めることにしたのだが、よく考えてみれば別に迎撃しないでも相手の攻撃無視できるじゃんつと思いついた。まあボスも倒したことだしと意識を戻す。

広間の奥に見覚えのあるドアを発見し先へ進んだ。

ドアを閉めるときに広間に放置したまま忘れていた妖精さんマッチヨが親指を立てていたが、消えて良いぞと念じるとそのまま消えてつた。最近ちよつとわすれがちな兄貴でした。

『ブランチャー41——410

トレンチャー1——2000

フロア2攻略 — 2000 TOTAL4410

フロア2としての成果は特になく、レベルアップ無し。日付が変わる頃に30日目の徴収金3000が所持金から減った。

31日目〜33日目

フロア3はフロア1と同じ洞窟だったのだが、出てきたモンスターはかの有名なゴブリンだった。

身長は140?ほどと以外と大きく、緑色の肌と理性を感じさせない人に似た醜悪な顔。片手剣や片手斧を持ち汚れた皮鎧を着たゴブリンは必ず2体以上の集団で現れ、襲いかかってくる。

2体で現れるならまだ反撃をくらう前に倒せるのだが、3体以上のゴブリンに襲われるとどうしても1撃はくらってしまう。

ダメージ自体は今だ1なので痛くはないのだが、【マッスルハイ】になってもすぐに戦闘が終わるので、本能が満足していないというか、発散不全でイライラが溜まっていった。

そんなイライラが頂点に達しようかとする2日後、早くもボス部屋かと思われる大部屋に到達した。

しかしそこにいたのは今までのような大型のボスではなく、5体ほどのゴブリンとゴブリンを身長だけ伸ばしたひよる長いゴブリンが1体。その長いゴブリンは拗くれた木の棒を持っている。

もう早く戦闘がしたくてしたくて仕方がない僕は、背後の兄貴に目配せすると応援を待たずに駆けだした。
ボシング

長いゴブリン以外のゴブリン達が武器を振り上げて一斉に迫ってくる。

戦闘のゴブリンの顔を殴り、スプラッタにした後、簡単に他のゴブリンの攻撃をくらい、頭のスイッチが切り替わる。

「はっはあっ！」

まず1体。

「はあああ！」

2体目——つと目の前に30？くらいの炎の玉が迫る。

「はっ！」

拳で殴りつけたら消えた。ちょっとHPが削れたみたいだが、こんな程度は熱いうちにはいらねえ。

「はっはあっ！」

3体目。

「はっ！」

4体目。また炎が迫るが殴りつけて消滅させる。楽しいじゃねえか！

「はっはあっ！ひっひっひっ！ふっ！へええええ！フオオオオツ！」

5、6、7、8、9体目終了！

「ふっ！はっ！」

炎を殴り消し、10体目のゴブリンを殴殺する。

さあ最後の仕上げだ。

長ゴブリンは何か喋ると杖をこっちに向ける。その杖の先っぽから炎の玉が出た。

「ほれっ！」

俺に迫る炎の玉を殴り消す。ゆっくりと一歩前に出る。

「んなもんよりよお」

再び迫る炎を殴り消す。一歩前に出る。もう俺の拳が届く距離。

「こっちの方が熱いぜ。見るコレを！」

左腕の力瘤を魅せる。俺の筋肉サイコーだろ！あちーだろー！

呆けた顔をする長ゴブリン。

「んじゃ、さよならだ——はあああつ！」

右拳を長ゴブリンの顔面に叩き付ける。そのまま顔面がハジケ飛び消えてった。

ピロリロリーン

音と共にスイッチが切り替わる。

久々のレベルアップだ。今までのイライラを解消できたので、スッキリした気分のまま前方にあるドアを開けて帰った。

ゴブリン91	1820
ボブゴブリン1	3000
フロア2攻略	3000
TOTAL7820	

結構お金入ってきたなと思ってたら思い出した。妖精^{マッちょ}さんの事を。まあ勝手に帰っただろうとそのまま部屋に入る。

翌日召還した兄貴^{マッちょ}の目が少々赤かったので、ごめんと素直に謝ったら、白い歯を煌めかせ笑って許してくれた。喋らないから勝手な僕の想像だけど。

34日目〜36日目

フロア4は洞窟に魔法を使う長ゴブリン改めボブゴブリンが2体で現れるフロアだった。

しかも火だけでなく水であったり風(?)であったり土であったりと、1体のボブゴブリンにつき1つの属性なのだが、遠距離攻撃の無い僕は先制攻撃ができず、1撃50前後のダメージをくらいながら【マッスルハイ】になり、2体のボブゴブリンを殲滅する。

1戦闘で最低2発100前後のダメージをくらうのは非常に痛かったのだが、何よりも痛かったのが炎の魔法がお腹の辺りに当たったときだ。別にダメージの事ではない。萌えたのだ。間違えた燃えたのだ。パンツが。

相変わらずパンツ一丁に足袋姿で戦闘していたのだが、骨格が変わりピチピチになった僕のボクサーブリーフ^{マッちょ}が燃え落ちた。

どうしようかと考え、目に入った兄貴^{マッちょ}のビキニパンツ^{マッちょ}。奪ったら泣かれるかなつと考えてみたが、少し冷静になってみると兄貴^{マッちょ}の温もりを感じる想像をしてしまい、自己嫌悪に陥る僕だった。

その日は赤い光の黒の部屋の近くでHPが尽きる頃合いまで狩る

ことにし、ブランブランさせながら戦った。

服を着て戦うモンスターとブランブランさせながら戦う僕。更に自己嫌悪に陥った。

良い事もあった。なんと20体倒したらLVが上がったのだ。今までのゴブリン達に比べて格段に経験値が増えたのだろう。

結局その日はHPが500を切るか、LVが3つ上がるまで頑張ろうと思い、LVが3つ上がった所でHPも738だったので帰った。

ショップで耐魔法のパンツを探すと、25800でMDEF+20だけが上がるパンツを発見。ビキニタイプとボクサータイプで考えて、ビキニタイプを買った。ほら、ボクサーだと足の筋肉が綺麗に見えないというか、べ、別にビキニが格好いいわけじゃなくて筋肉の為なんだからね。勘違いしないように。ちなみに物は 四弦蜘蛛のビキニブリーフ という4色の糸を紡ぐ蜘蛛から抽出した糸で作ったパンツらしい。四弦蜘蛛の糸は抗魔素材として他の防具にも多く使われているのを見かけた。高いが特にレアというわけではないようだ。

翌日魔法をくらっても燃えるどころか、ダメージを軽減するビキニパンツ一丁で戦闘する僕。

そして探索を始めてから2日目、1時間でボブゴブリンを30体倒せる鬼沸きスポットを発見。持てるだけ回復アイテムを買い込み、第2の修行を開始することにした。

長くても10日間の修行と考えていた僕だったが、2日後に得たアビリティによって60日にも及ぶ修行の日々になるとは、まだこのときの僕は考えもしていなかった。

5・28日目〜36日目（後書き）

ある程度の基本的な強化が終わったら、同じような繰り返しになるので、その場면을ドツカンと飛ばしてダンジョン終わらせる予定です。

次回、妖精さん^{マッシュ}さん少しだけ活躍します。

明日更新予定

6・100日目〜101日目

とうとう今日で100日目を数える。

修行を開始して43日目にして2度目の転生を終えた僕は、更にここで18日間ボブゴブリンを狩り続けた。

昨日は探索に使い、今日はボス攻略の日。

目星を付けた大部屋へとボブゴブリンを撲殺しながら進んで行く。そして着いた大部屋の中にいたのは、ボブゴブリンが4体と豚顔で僕より少し大きいか2mほどある大男。これも有名だろうオークではないだろうか、そのオークが2体いた。

僕は後ろに控えている兄貴マッチヨに帰るように願うと親指を立てて消えていく。

そして別の兄貴マッチヨを召還する。

【兄貴マッチヨソルジャー】：戦闘へと興味を持ち【サイドチェスト】を覚えた兄貴。筋肉で魅せる前衛攻撃型。

そう前衛攻撃型の妖精さんマッチヨを召還できるようになった。

僕の隣に立つ兄貴マッチヨソルジャーは、姿形は基本的に兄貴マッチヨと同じなのだが、顔に迷彩柄のペイントをしているのが特徴だ。白い歯と100万ドルの笑顔は変わらないが。

僕はソルジャーにさあ行くぞと目配せをしてボス戦の場へと臨んだ。

ボブゴブリン4体が前に出てくる。オークはそのまま様子を見るようだ。

まず中心右にいるボブゴブリンが杖の先から炎の玉を放つ。僕はソルジャーの前へ出ると、炎の玉を右拳で殴りつける。バシユツと音を残し消える炎の玉。ダメージ無し。

次に左から土の玉が来るが左拳で殴りつけて消滅させる。
連続で放たれた水の玉を右拳で殴り消し、同時に放たれた風の玉を左の裏拳で殴り消す。

次の詠唱に入ったボブゴブリン等だったが、その間に距離を詰めるソルジャーが「サイドチェスト」を発動する。

右手で左手首を持ち、左膝を曲げて身体を横にする。左肘を90°。曲げ左腋の後ろへ、横を向きドヤ顔。横から見た胸の厚みを強調しつつ、腕の太さや足の太さを強調するポーシング、サイドチェストだ。

ポーシングがピタツと決まると、身体が光り前方45°へ照射される。光に飲み込まれる右手側2体のボブゴブリン。

光が消えた後にはその姿は消滅していた。

照射できる範囲は前方2mと短いが、威力は未知数の攻撃だ。普段の戦闘では僕の出番が無くなるので、ソルジャーは使っていないが頼りになる奴である。

僕はソルジャーへと向かい、左側2体のボブゴブリンが放った土と風の魔法の玉を殴り消すと、そのボブゴブリンへ向けてソルジャーのサイドチェストが照射された。

これで残るはオーク2体。僕はソルジャーに下がるよう指示を出し、オークの元へ向かった。

走りながら頭のスイッチを切り替える。

殴りかかってくる右側のオークの拳を避けずにくらう。ダメージは1。すぐに回復してHPは満タンになる。

左のオークも殴りかかるが、俺は避けずに受ける。ダメージ1。

「おら、もっと来いよ」

俺は右人差し指でクイクイツと動かして挑発した。

それで憤慨したのか鼻息粗く殴りかかってくる豚男^{オーク}2体。

バシッバシッと当たるが、痛くもない。

「きかねえよ！おら、もっと力入れろ」

ブモーーーっと叫んで拳を光らせて殴りかかってくる。

ガスツと光る拳が当たるが、ダメージは12だ。もう1体のオークの一発10もくらう。

その後また普通の攻撃に戻ったオークがバシバシ殴ってくるが、回復の方が早い。30秒も殴らせていたが、回復してしまった。

「ちっ、あれが限界かよ。つまんねえな。オラツ！」

俺はそう言いながら右側のオークへと殴りつけると、オークの胸に突き刺さった。

ブンモーーーっと叫び消えていくオーク。

「こっちもだ。ツラアツ！」

残りのオークの顔面へと殴りつける。ボシユツと頭が爆発するよ
うにバラバラになると、崩れ落ちた体と一緒に消えていった。

頭のスイッチが切り替わる。

余計な攻撃をくらうという無駄な事もあったけど、親指立ててる
ソルジャーに帰って良いぞと念を送り、奥のドアを抜けて帰った。

「ステータスオープン」

翌日の朝、日課のステータス確認。

名前：高田 勝 年齢：21歳 種族：日本人 所
持金：316550

LV 15 (―30)

STR 225 AGI 32 DEX 32

VIT 225 INT 1 MND 1

FP 0

HP 15750 / 15750 MP 2350 / 2350

ATK 990 MATK 1

DEF 820 MDEF 11

SPD 11 MSPD 1

WEIGHT 14

職業：―

称号：【超越者】

信仰：【筋肉の誓い】

アビリティ：【ワープ】【ゴルドの拳】【ゴルドの肉体】【

エレメンタル体】ソーサリーブレイカー【魔導殺し】【無形種殺戮体】【外道種殺戮体】

アクティブスキル：【妖精召還術】

パッシブスキル：【鬼の貌】

状態：―

武器：ゴルドの拳

防具：ゴルドの肉体 四弦蜘蛛のビキニブリーフ

他：4次元ドックダグ 皮革地下足袋

まず【筋肉の誓い】になった事で任意で【マッスルハイ】になれるようになった。

そして長く修行をしようと決意した原因となったアビリティこそ【エレメンタル体】である。

【エレメンタル体】：4種の魔法を素肌でくらい続けたため耐性が出来た体。被M A T K 1 / 2

これを手に入れたことで更なる対魔法が手に入るのではと思い、修行の延長が決まったのだ。で、手に入れたアビリティがこれ【魔導殺し】。

【魔導殺し】ソーサリーブレイカー：魔法を殴り続けた結果、物理が魔法に干渉できるようになった。被M A T K - A T K

A T Kを超えない限りダメージを全く受ける事が無い。しかもダメージが通ったとしても【エレメンタル体】で1 / 2されるのだから、対魔法への大きなアドバンテージになる。

最後に【鬼の貌】オーガだが、これは転生の時に出てきた選択肢“物理強化”“魔法強化”“知覚強化”“物理制御”“魔法制御”“知覚制御”“種族特化取得”の中から敢えて“物理強化”ではなく“種族特化取得”を選んだ時に得たパッシブスキルだ。

【鬼の貌】オーガ：背中の筋肉が鬼の顔に見える。周囲のmanaを取り込みHPを常時回復する鬼族の種族特化。秒間M A Xの0 . 0 1 %回復する。

今現在のMAXHPが15750あるので、秒間約1.5回復するという優れたものだ。これで死ぬ確率が更に下がっただろう。

買ひ物は食事等消耗品以外は買っていないので、お金も貯まり気味だが、将来的にレア素材の上位を買いたいと思っているので貯金だ。武器も防具も必要ないというのは素晴らしい経済的だ。さすが僕の筋肉。

「ステータスクローズ」

ステータスの確認を終えた僕は、これも日課となった柔軟を始める。

体の関節の可動域を広げるのは、ステータスには反映されないのだが、戦闘時での体の動きが全然違う事に気付いた。

ステータスに反映されないが必要な事、というのが多々あるのに気付き、今日から数日休みにして調べてみる事になっている。

その一つが体術スキルとは別に体術を覚える事が可能ではないかと言うこと。まだ体を鍛える事を諦めてなかった中学時代、ボクシング入門という本で真似事レベルだが構えやパンチの仕方を練習した事がある。実はその頃の動きが実際、ダンジョン内での僕の動きに反映されているのだ。物理アクティブスキルがどんな形で使えるのかはわからないが、動きや体捌きなどはスキルとは別に覚えらるるかと考えている。

鍛える事を諦めきれずに一種の趣味となつた世界中のマーシャルアーツの本の収集。高校卒業と共に封印したこの本がまだ押し入れに眠っている。

中でも参考にしたいと思っているのが中国武術。中国武術の中でも色々あるのだが、僕が懂れているのが様々な漫画でも使われていた八極拳。敵に超接近しての武術。これを本でのみだが学んでみようと思う。

功夫（^{カンフー}鍛錬の意）を積んでこそ中国武術なので、どこまで出来

るかわからないが、更に強く生き抜くために必要な事だと思う。うん。シュミジャナイヨ。イキルタメダヨ。

そしてこの時の功夫が、後に意外と面白い形で現れる。それはもう少し先の話。

6・100日目〜101日目（後書き）

ちょっと短めですが、新たな妖精さん^{マツチヨ}の登場です。
勇次郎も良いですがオリバも好きです。あの筋肉。

後2か3話くらいでダンジョン編終了の予定です。ダンジョン編が
終わりますと、異世界で活躍してもらいます。一応3人称での進行
を考えてますが、自分の拙い文章力と相談の上、決めたいと思っ
てます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2891z/>

レニ<1000% ~おい俺の筋肉~

2011年12月18日12時47分発行